



節分の由来

節分とは、もともと季節の変わり目で立春・立夏・立秋・立冬の前日のことを言います。暦の上では、春から新しい年が始まったため、いつの頃からか立春の前日だけが節分となり、春への折り返し目として3日ごろに行われています。神社や寺では、面を付けた鬼に向かって豆をまいて退散させる追儺や年男たちが豆をまくところもあります。豆には、穀物の霊が宿っていると考えられていたからです。

いわしの頭を家の入り口に刺したり、柗の木の枝を刺したりするのは、鬼はいわしが嫌いなので逃げていくため。柗は、枝にとげがあるので鬼が恐れているからだと言われています。

保育園でも豆まきをしますが、自分の心の中にいる“ちょっぴり意地悪鬼”“泣き虫鬼”“怒りんぼ鬼”などを追い出して、元気な子どもに成長してくれることを願っています。



エレファントプラス親子コンサート

25日(土) 10:00~11:30
第二みみよう保育園 5階ホール

微妙福祉会の音楽好きな職員で構成されたブラスバンド部のコンサートがあります。たくさんの親子に参加してもらいたいと思っています。お子さんと一緒に、楽しいひと時をお過ごしください。

参加申し込みは、直接、事務所までお伝えください。



平成 29年 2月の園だより



「子どもの自立と自律を育む」

保育所の教育・養護のガイドラインである「保育所保育指針」が平成30年に改定されます。今回の改定では、保育所保育における幼児教育の積極的な位置づけが示されました。しかしながら、みみようグループには認定こども園、幼稚園とがありますが、教育活動についてはこれまでと何ら変わりありません。むしろ、長時間保育である保育園のほうが、主体的なあそびや生活を通して生まれる学びの時間がたっぷりだと考えています。

今回の改定では、「幼児教育において育みたい資質・能力」として、何を理解しているか、何ができるかといった「知識・技能の基礎」。理解していること、できることをどう使うのかといった「思考力・判断力・表現力等の基礎」。どのように社会・世界と関わりよりよい人生を歩むかといった「学びに向かう力・人間性等」を3つの柱として掲げています。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として、1)「健康な心と体」2)「自立心」3)「協同性」4)「道徳性・規範意識の芽生え」5)「社会生活との関わり」6)「思考力の芽生え」7)「自然との関わり・生命尊重」8)「数量・図形、文字等への関心・感覚」9)「言葉による伝え合い」10)「豊かな感性と表現」を具体的に示しています。

今回の改定により、これからの教育のあり方が示されたわけですが、これまで、どういう子どもに育ってほしいのか、または育みたい資質・能力は何かを、国として具体的に示すことはありませんでした。そういった意味では、これらを示したことについては大いに評価できます。しかし、一歩間違えると、知識を教える身につけようとするだけで終始したり、「できる」「できない」といった評価で子どもを型にはめてしまう危険性があります。本来、幼児期は、身近な大人の愛情を基盤に一人ひとりが

個性を発揮して、毎日の生活やあそびを通して物事に興味関心を広げながら、その仕組みを知ろうとしたり、意欲的に、粘り強く取り組んでいく、その心情や意欲、態度を育てることが大切であり、学校の準備期間でもなく、他児との比較や一定の基準に対する達成度で子どもを見て育てていくことではないと考えています。同時に、これからの幼児教育のキーワードとなる「非認知能力」といった目に見えにくい学びに向かう力や姿勢、言い換えれば、子どもが主体となった協同的学びであるアクティブラーニングとの整合性が取れるのかを危惧しています。

また、就学前に身に着けておきたい力のひとつに、「自立」(他者の助けや支配なしに自分一人の力で物事を行うこと)と「自律」(他の助けや支配なしに自分で立てた規範に従って行動すること)があります。年長児になると夏のお泊り保育に出かけますが、近年、親離れができていない子どもが多く見受けられるようになりました。お泊り保育のねらいにもある「自立」と「自律」ができていないということは、お泊り保育のあり方そのものを見直すという話にもつながってまいります。この「自立」と「自律」を育てるには、やはり、他児との比較することなく、やる気を高めて能力を伸ばすためには、①自分で物事を考えることができるように促す。②できたらしっかりとほめる。③そっと守るとすることが基本であると考えます。

園では、これからも様々な環境やあそびを通して、子どもの自主性、個性を伸ばすために、よいところはほめ、悪いことをした時には叱るのではなく自分で考えさせるなど、バランスよく、「自立」と「自律」を育てていきたいと思えます。ご家庭においても、やる気の源である愛情をたくさん注ぎ、よいところを認めてほめながら、「自立」と「自律」を育てていけたらと思います。

子育て応援コラム

「6つになった」

1つのときは なにもかも はじめてだった。
2つのときは ぼくはまるっきりしんまいだった。
3つのとき ぼくはやっとぼくになった。
4つのとき ぼくはおおきくなりました。
5つのとき なにからなにまでおもしろかった。
今は6つで ぼくはありったけおりこうです。
だから いつまでも 6つでいたいと ぼくはおもいます。

くまのプーさんの原作者 A A ミルンの詩
(訳 周郷 博)

0歳、初めての世界に飛び出して、1歳、見るものする事すべてが初めて。2歳の頃は何をすることもただどどしく、3歳では自我が大きく膨らんで「ぼくになった」と自覚します。4歳は、目の前の世界がますます広がり年長児にあこがれを抱き、「あんなふうになりたい」「おおきくなりたい」と思い、園生活を自分のものにし始めた5歳は「なにからなにまでおもしろかった」と。そして仕上げの6歳は、自分は「おりこう」と自信に満ちています。

このように子どもは成長していきます。未来を生きる子どもたちの成長を促し支える場が園、そして温かい家庭です。



119番通報
できますか?



消さないで
あなたの心の
注意の火